

資 料

本学における学生の体育実技履修種目の実態と
要望に関する調査結果について

浅見 俊雄 松尾 彰文
琉子 友男 友末 亮三

東京大学教養学部

Trends of Physical Activities Actually Selected and Favored by General Students
at the University of Tokyo: A Questionnaire Survey

Toshio Asami, Akifumi Matsuo, Tomoo Ryushi and Ryozo Tomosue

Department of Sports Sciences, College of Arts and
Sciences, University of Tokyo

東京大学では体育実技は一般教養課程の必修科目として、2年間、4学期にわたり受講しなければならない科目となっている。現在、本学の体育実技ではソフトボール、サッカー、ハンドボール、バスケットボール、バレーボール、テニス、バドミントン、卓球、合気道、トレーニング、トレーニングA（有酸素運動を主体としたもの）の11種目と、疾病、障害等を有する学生のための特別体育が用意されており、その中から各時間の履修学生数と担当教官との組み合わせで、毎時間5から9種目が開講されている。

体育実技の受講に際しては、4学期間で4種目を選択することを原則としている。施設や用具などの関係で各種目で受け入れが可能な人数には制限があり、必ずしも全員が4学期間とも希望する種目を受講できない場合がある。しかしながら、必修科目である以上は希望しない種目でも受講しなければならない。特に体育実技ではやる気のないままに受講することは身体活動の意欲が減退し、事故を引き起こす可能性も高まってくると考えられる。こうしたことから、学生の希望を十分に考慮した開設種目の設定が望まれるところである。

本調査は、すでに2年間にわたり体育実技を受講した本学学生を対象として、学生の履修の実態と、開設していない種目も含めて履修の希望を調査し、より学生の希望の実態に合った体育実技を設計するにあたっての基礎資料を得ることを目的として行なわれたものである。

方法

体育実技の履修に関する調査は、2年生を対象に昭和63年度4学期末の体力テスト期間中に実施された。文系と理系および男子と女子とで回答者の全学生数に対する偏りがないように調査を実施する授業時間を選んだ。

調査は、111ページに示した形式の回答用紙を用いて、集計にはマークカードリーダー（SEKONIC SR-701）を使用した。集計作業はパーソナルコンピュータ（PC-9801XL；日本電気）を使用した。

調査項目は1. 性別、2. 科類、3. 進学内定学部、4. 実際に4学期にわたって履修した種目（学期ご

とに回答）、5. 現行種目の中で履修を希望する種目および希望しない種目（4種目まで）、6. 大学の体育実技にあればよいと思うキャンパス内で定期的に行なえる種目（4種目まで）、7. シーズンスポーツ導入の是非、8. 開設を希望するシーズンスポーツの種目、9. 6, 8にあげた種目も含めて履修を希望する種目と希望しない種目（各4種目まで）、および履修希望種目が季節により異なるか、10. 4学期4種目選択の原則について、11. その他体育実技への要望であった。

回答は11.を除きすべて該当する箇所に鉛筆でマークする方式をとった。

結果

本調査での回答者は総計1474名、うち男子が1284名(87.1%)、女子が190名(12.9%)であった。これは2年生総数3635名に対して、全体で40.6%、男子39.2%、女子は52.9%であり、女子の割合がやや高かった。

科類および進学予定の学部別の回答者数を示したものが表1である。科類別にみるともっとも多

表1 回答者の科類別進学内定学部別人数

科類別	全体		男子		女子		
	n	%	n	%	n	%	
計	1474	100.00	1284	100.00	190	100.00	
文	1	212	14.38	192	14.95	20	10.53
文	2	167	11.33	158	12.31	9	4.74
文	3	273	18.52	205	15.97	68	35.79
理	1	392	26.59	364	28.35	28	14.74
理	2	369	25.03	306	23.83	63	33.16
理	3	61	4.14	59	4.60	2	1.05
学部別							
法 学 部	203	13.77	184	14.33	19	10.00	
経 済 学 部	150	10.18	144	11.22	6	3.16	
文 学 部	203	13.77	158	12.31	45	23.68	
教 育 学 部	53	3.60	38	2.96	15	7.89	
工 学 部	200	13.57	186	14.49	14	7.37	
理 学 部	197	13.37	173	13.47	24	12.63	
農 学 部	213	14.45	192	14.95	21	11.05	
薬 学 部	50	3.39	42	3.27	8	4.21	
医 学 部	95	6.45	82	6.39	13	6.84	
教養学部教養	61	4.14	41	3.19	20	10.53	
教養学部基礎	49	3.32	44	3.43	5	2.63	

かったのが理科I類(26.6%), 次いで理II(25.0%), 文III(18.5%), 文I(14.4%), 文II(11.3%), 理III(4.1%)であった。各科類の総数に対する比率でみると文Iが29.8%, 文IIが38.2%, 文IIIが55.0%, 理Iが29.8%, 理IIが64.2%, 理IIIが61.6%であった。科類別には比率にばらつきがあったが, 文科, 理科別に大別すると, 文科が39.6%, 理科が41.3%でほぼ同様の比率であった。

履修した種目別に履修者数をみたものが表2である。上段は1学期から4学期までの履修者の延べ人数で, 下段は履修者実数である。この差は同

表2 種目別の履修者数

種目別履修者(1から4学期までの延べ人数)

	合計		男子		女子	
	n	%	n	%	n	%
合計	1474	100.00	1284	100.00	190	100.00
ソフトボール	698	47.35	672	52.34	26	13.68
サッカー	676	45.86	675	52.57	1	0.53
ハンドボール	273	18.52	260	20.25	13	6.84
バスケットボール	286	19.40	274	21.34	12	6.32
バレーボール	744	50.47	647	50.39	97	51.05
テニス	799	54.21	627	48.83	172	90.53
卓球	679	46.07	540	42.06	139	73.16
バドミントン	657	44.57	526	40.97	131	68.95
合気道	136	9.23	110	8.57	26	13.68
トレーニング	636	43.15	572	44.55	64	33.68
トレーニングA	273	18.52	200	15.58	73	38.42
特別体育	29	1.97	28	2.18	1	0.53
無回答	10	0.68	5	0.39	5	2.63

種目別履修者数

ソフトボール	590	40.03	565	44.00	25	13.16
サッカー	510	34.60	509	39.64	1	0.53
ハンドボール	237	16.08	226	17.60	11	5.79
バスケットボール	249	16.89	240	18.69	9	4.74
バレーボール	621	42.13	538	41.90	83	43.68
テニス	709	48.10	570	44.39	139	73.16
卓球	593	40.23	478	37.23	115	60.53
バドミントン	611	41.45	486	37.85	125	65.79
合気道	130	8.82	108	8.41	22	11.58
トレーニング	513	34.80	455	35.44	58	30.53
トレーニングA	232	15.74	170	13.24	62	32.63
特別体育	18	1.22	17	1.32	1	0.53
無回答	6	0.41	4	0.31	2	1.05

一人が同一種目を複数回履修した学生の多さを表している。履修者の延べ人数でもっとも多い種目

は全体ではテニス(799名, 全回答者の54.2%), 男子ではサッカー(675名, 男子の全回答者数の52.6%), 女子ではテニス(172名, 女子の回答者数の90.5%)であった。種目別の履修者数でみると全体ではテニス(709名, 48.1%), ついでバレーボール(621名, 42.1%), バドミントン(611名, 41.5%)であった。男子ではもっとも多いのがテニス(570名, 男子回答者数の44.4%), ついでソフトボール(565名, 44.0%), バレーボール(538名, 41.9%)であった。女子ではテニス(139名, 73.2%), バドミントン(125名, 65.8%), 卓球(115名, 60.5%)で, ラケットスポーツがいずれも60%以上であった。

合気道の履修者(130名, 8.8%)が少ないのはこの種目の開講時間数が各学年2~3コマであったためである。

同一人が同一種目を履修した回数を種目別, 回数別の人数でみたものが表3である。この表では男女を合わせた人数を示した。回数ごとに示されている比率はその種目の履修者数に対する比率である。2回以上の履修者はもっとも高い比率を示したのがサッカー(2回; 20.6%, 3回; 5.1%, 4回; 0.6%), 次いでトレーニング(2回; 19.5%, 3回; 2.0%, 4回; 0.2%)であった。

現在開講中の種目で履修を希望する種目と, しない種目についてみたものが表4である。希望する種目についてみると最も多いのが全体ではテニス(53.8%), ついでソフトボール(51.4%), サッカー(40.8%)であった。男子ではソフトボール(55.1%), ついでテニス(50.5%), サッカー(46.3%), 女子ではテニス(76.3%), バドミントン(59.0%), 卓球(48.4%)の順であった。女子では履修種目と同様, ラケットスポーツを希望する学生の多いことが示された。

実際に履修した種目が履修を希望する種目であったのか, あるいは希望しない種目であったのかをみたものが表5である。希望と一致した種目ではもっとも多いのがソフトボール(履修者数の78.5%), ついでテニス(73.6%), サッカー(67.3%)であった。希望しない種目ではもっとも多いのがトレーニング(15.4%), ついでハンドボール(14.8%), トレーニングA(14.7

%)であった。ここで注目すべきことは2回以上履修した人数ではトレーニングの割合が多いにもかかわらず、履修を希望しない割合がもっとも多い種目もトレーニングであったことである。

男子では卓球、ハンドボールを除くボールゲームで、女子ではラケットスポーツで、いずれもほぼ60%以上の学生が希望と一致した選択を行なっ

ており、逆に希望しない種目を履修した学生の割合は、女子の特別な種目を除けば、いずれも16%以下であった。

現在は行なわれないが新しく開設を希望する種目についてみたものが表6である。もっとも多いのは全体ではゴルフ(54.3%)であり、ついで水泳(53.0%)、ラグビー(31.4%)であった。

表3 同一種目を履修した回数別、種目別人数

重複回数	履修数		1回		2回		3回		4回	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
ソフトボール	590	100	486	82.37	100	16.95	4	0.68	0	0.00
サッカー	510	100	376	73.73	105	20.59	26	5.10	3	0.59
ハンドボール	237	100	204	86.08	30	12.66	3	1.27	0	0.00
バスケットボール	249	100	215	86.35	31	12.45	3	1.20	0	0.00
バレーボール	621	100	514	82.77	93	14.98	12	1.93	2	0.32
テニス	709	100	622	87.73	84	11.85	3	0.42	0	0.00
卓球	593	100	514	86.68	72	12.14	7	1.18	0	0.00
バドミントン	611	100	565	92.47	46	7.53	0	0.00	0	0.00
合気道	130	100	124	95.38	6	4.62	0	0.00	0	0.00
トレーニング	513	100	402	78.36	100	19.49	10	1.95	1	0.19
トレーニングA	232	100	199	85.78	25	10.78	8	3.45	0	0.00
特別体育	18	100	9	50.00	7	38.89	2	11.11	0	0.00
無回答	6	100	3	50.00	2	33.33	1	16.67	0	0.00

(65.3%)ついでゴルフ(59.0%)であった。男女ともゴルフ、水泳の希望者が半数を越えていることが明らかになった。

現在は行っていないシーズンスポーツについての開設の要望をみた結果が表7である。表の上段が導入の是非についてであり、下段が是とする場合開設を希望する種目について示したものである。シーズンスポーツの導入を希望する回答者数は全体の85.3%であり、否定者数は13%であった。希望種目についてみるとスキー(67.0%)、スケート(40.8%)、水泳(38.3%)であった。

現行種目に加えて、キャンパス内の新しい種目およびシーズンスポーツのすべての種目から、履修を希望する種目としない種目をそれぞれ4種目まであげさせた回答について分析したものが表8である。希望する種目では全体ではスキーの38.8

%が最も多く、ついでテニス(33.1%)、ソフトボール(29.2%)、ゴルフ(25.1%)、水泳(屋内)(24.4%)の順であった。男子ではスキー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、サッカーの順であり、女子ではテニス、スキー、スケート、水泳、バドミントンの順となって、スキー、ゴルフ、水泳(屋内)などの新種目の開設希望の多いことが明らかとなった。希望しない種目は最も多いのが合気道(25%)、ついでトレーニングA、柔道、トレーニングの順であった。女子ではサッカー(40%)、ついでラグビー(31.1%)、ハンドボール(30.5%)であり、バドミントンを希望しない女子学生は一人もいなかった。

4学期4種目選択するという原則についての否定的な人数は全体の12.1%であった(表9)。このことは9割ほどの学生は、4学期の間に異な

表4 現行種目の中で履習を希望する種目と希望しない種目

履修希望種目		合	計	男	子	女	子
		n	%	n	%	n	%
合	計	1474	100.00	1284	100.00	190	100.00
ソフトボ	ール	757	51.36	708	55.14	49	25.79
サ	ッカー	602	40.84	594	46.26	8	4.21
ハンドボ	ール	246	16.69	230	17.91	16	8.42
バスケットボ	ール	513	34.80	465	36.22	48	25.26
バレ	ボール	580	39.35	501	39.02	79	41.58
テ	ニス	793	53.80	648	50.47	145	76.32
卓	球	447	30.33	355	27.65	92	48.42
バドミント	ン	544	36.91	432	33.64	112	58.95
合	気道	290	19.67	222	17.29	68	35.79
トレ	ニング	210	14.25	187	14.56	23	12.11
トレ	ニングA	106	7.19	77	6.00	29	15.26
特	別体育	18	1.22	17	1.32	1	0.53

履修希望しない種目		合	計	男	子	女	子
		n	%	n	%	n	%
ソフトボ	ール	225	15.26	163	12.69	62	32.63
サ	ッカー	374	25.37	254	19.78	120	63.16
ハンドボ	ール	545	36.97	443	34.50	102	53.68
バスケットボ	ール	356	24.15	287	22.35	69	36.32
バレ	ボール	230	15.60	194	15.11	36	18.95
テ	ニス	120	8.14	111	8.64	9	4.74
卓	球	284	19.27	269	20.95	15	7.89
バドミント	ン	117	7.94	112	8.72	5	2.63
合	気道	555	37.65	519	40.42	36	18.95
トレ	ニング	510	34.60	449	34.97	61	32.11
トレ	ニングA	572	38.81	524	40.81	48	25.26
特	別体育	528	35.82	485	37.77	43	22.63

表6 現行種目以外で開設を希望する種目

		合	計	男	子	女	子
		n	%	n	%	n	%
野	球	285	19.34	209	16.28	76	40.00
剣	道	449	30.46	431	33.57	18	9.47
柔	道	336	22.80	303	23.60	33	17.37
水	泳	781	52.99	657	51.17	124	65.26
ゴ	ルフ	800	54.27	688	53.58	112	58.95
ラ	グビー	463	31.41	447	34.81	16	8.42
陸	上競技	224	15.20	190	14.80	34	17.89
そ	の他	174	11.80	155	12.07	19	10.00

表5 実際の履修種目での希望、非希望の割合

履修種目での履修希望者

	履修者		合計		男子		女子	
ソフトボール	590	100	463	78.47	445	78.86	18	72.00
サッカー	510	100	343	67.25	343	67.39	0	0.00
ハンドボール	237	100	81	34.18	78	34.51	3	27.27
バスケットボール	249	100	152	61.04	147	61.25	5	55.56
バレーボール	621	100	369	59.42	315	58.55	54	65.06
テニス	709	100	522	73.62	410	71.93	112	80.58
卓球	593	100	307	51.77	233	48.74	74	64.35
バドミントン	611	100	344	56.30	256	52.67	88	70.40
合気道	130	100	66	50.77	53	49.07	13	59.09
トレーニング	513	100	145	28.27	133	29.23	12	20.69
トレーニングA	232	100	65	28.02	47	27.65	18	29.03
特別体育	18	100	1	5.56	1	5.88	0	0.00

履修種目での履修非希望者

	履修者		非希望者		男子		女子	
ソフトボール	590	100	10	1.69	7	1.24	3	1.20
サッカー	510	100	31	6.08	30	5.89	1	100.00
ハンドボール	237	100	35	14.77	33	14.60	2	18.18
バスケットボール	249	100	10	4.02	10	4.17	0	0.00
バレーボール	621	100	22	3.54	17	3.16	5	6.02
テニス	709	100	15	2.12	12	2.11	3	2.16
卓球	593	100	35	5.90	34	7.11	1	0.87
バドミントン	611	100	14	2.29	12	2.47	2	1.60
合気道	130	100	9	6.92	6	5.56	3	13.64
トレーニング	513	100	79	15.40	70	15.38	9	15.52
トレーニングA	232	100	34	14.66	25	14.71	9	14.52
特別体育	18	100	4	22.22	3	17.65	1	100.00

った種目を履修するという原則を支持していることを示している。

季節(春・夏学期と秋・冬学期)により希望種目が異なるかどうかについての回答では、1116名(75.7%)が異ならないと答えた(表9)。このことは、体育実技の種目の選択に関して季節を条件に入れている学生は全体の約1/4程度であることを示すものである。

まとめ

体育実技の履修に関する実態と要望の調査を、2年生の4学期終了時期に履修学生の約40%にあたる1474名(男子1284名、女子190名)を対象

表7 シーズンスポーツ導入の是非と開設希望種目

シーズンスポーツ導入是非

	合計		男子		女子	
是	1257	85.28	1081	84.19	176	92.63
非	192	13.03	180	14.02	12	6.32
無回答	25	1.70	23	1.79	2	1.05

シーズンスポーツ希望種目

スキー	987	66.96	867	67.52	120	63.16
スケート	602	40.84	487	37.93	115	60.53
水泳	564	38.26	485	37.77	79	41.58
その他	69	4.68	63	4.91	6	3.16

表8 現行種目, 新種目を含めての履習希望, 非希望種目

履修希望種目

	合	計	男	子	女	子
ソフトボール	431	29.24	408	31.78	23	12.11
サッカー	306	20.76	304	23.68	2	1.05
ハンドボール	87	5.90	84	6.54	3	1.58
バスケットボール	265	17.98	250	19.47	15	7.89
バレーボール	283	19.20	244	19.00	39	20.53
テニス	488	33.11	392	30.53	96	50.53
卓球	213	14.45	168	13.08	45	23.68
バドミントン	289	19.61	223	17.37	66	34.74
合気道	143	9.70	105	8.18	38	20.00
トレニング	80	5.43	73	5.69	7	3.68
トレニングA	47	3.19	36	2.80	11	5.79
特別体育	9	0.61	7	0.55	2	1.05
剣道	111	7.53	89	6.93	22	11.58
野球	236	16.01	234	18.22	2	1.05
柔道	131	8.89	120	9.35	11	5.79
水泳(屋内プール)	360	24.42	290	22.59	70	36.84
ゴルフ	370	25.10	317	24.69	53	27.89
ラゲビー	202	13.70	200	15.58	2	1.05
陸上競技	74	5.02	62	4.83	12	6.32
その他	15	1.02	13	1.01	2	1.05
スキー	573	38.87	495	38.55	78	41.05
スケート	279	18.93	206	16.04	73	38.42
水泳(シーズン)	183	12.42	155	12.07	28	14.74
その他のシーズンスポーツ	17	1.15	17	1.32	0	0.00

希望しない種目

ソフトボール	123	8.34	89	6.93	34	17.89
サッカー	213	14.45	137	10.67	76	40.00
ハンドボール	251	17.03	193	15.03	58	30.53
バスケットボール	196	13.30	161	12.54	35	18.42
バレーボール	121	8.21	106	8.26	15	7.89
テニス	57	3.87	52	4.05	5	2.63
卓球	162	10.99	150	11.68	12	6.32
バドミントン	55	3.73	55	4.28	0	0.00
合気道	364	24.69	346	26.95	18	9.47
トレニング	328	22.25	290	22.59	38	20.00
トレニングA	350	23.74	319	24.84	31	16.32
特別体育	301	20.42	276	21.50	25	13.16
剣道	299	20.28	281	21.88	18	9.47
野球	129	8.75	91	7.09	38	20.00
柔道	339	23.00	289	22.51	50	26.32
水泳(屋内プール)	156	10.58	134	10.44	22	11.58
ゴルフ	76	5.16	64	4.98	12	6.32
ラゲビー	194	13.16	135	10.51	59	31.05
陸上競技	256	17.37	211	16.43	45	23.68
その他	15	1.02	15	1.17	0	0.00
スキー	59	4.00	51	3.97	8	4.21
スケート	54	3.66	51	3.97	3	1.58
水泳(シーズン)	112	7.60	94	7.32	18	9.47
その他のシーズンスポーツ	16	1.09	15	1.17	1	0.53

に実施し、その集計結果から以下のことが明らかになった。

1. 現行種目の中では、男子ではソフトボール、テニス、サッカーが、女子ではテニス、バドミントン、卓球が履修を希望する学生も実際に履修した学生も多い種目であった。

2. 希望と一致した種目の選択をしている学生が過半数であり、希望しない種目を履修しなければならなかった学生は、もっとも多い種目でも15%で、全体としては少数であった。

3. 履修を希望する種目には男女差がみられ、

特に女子ではラケットを用いるスポーツの履修を希望するものが多い傾向にあった。

4. シーズンスポーツの導入を希望するものが多く、特にスキースポーツの希望者は全回答者数の67%であった。

5. シーズンスポーツ以外で新しく開設を希望する種目は全体ではゴルフ(54.3%)、男子ではゴルフ(53.5%)、女子では水泳(65.3%)が最も多かった。男女ともに50%以上のものがゴルフ、水泳の体育実技での実施を望んでいることが明らかになった。

表9 4学期4種目選択の原則の是非と季節(学期)による履修希望種目の違いの有無

4学期4種目制について

	合計	男子		女子	
肯定	400 27.14	356	27.73	44	23.16
まあ肯定	564 38.26	462	35.98	102	53.68
どちらとも	259 17.57	235	18.30	24	12.63
まあ否定	90 6.11	80	6.23	10	5.26
否定	88 5.97	84	6.54	4	2.11
無回答	73 4.95	67	5.22	6	3.16

季節による履修希望種目の違い

ある	190 12.89	159	12.38	31	16.32
ない	1116 75.71	978	76.17	138	72.63
無回答	168 11.40	147	11.45	21	11.05

注. 対象となった学生の一年次にあたる昭和62年には、体育館改築工事にともない卓球が狭いプレハブ内で行われたため、卓球の履修学生数を体育館完成後の63年度に比べて約2/3に制限しなければならなかったという状況があった。

したがって卓球の履修学生数にはこの状況を考慮に入れる必要があるが、このことによる他種目への影響は複数種目へ分散されるため、ほとんど考えなくてよいと思われる。